



「海洋深層水はどう使われているのか？その1」

先月号では、海洋深層水には「水温が低いこと（低温性）」「細菌やウィルスが少ないこと（清浄性）」「植物にとっての栄養がたくさん含まれること（富栄養性）」という3つの大きな特徴があることを紹介しました。今回は、1つ目の「水温が低いこと（低温性）」が、久米島でどう使われているかを紹介したいと思います。真謝にある沖縄県海洋深層水研究所で、水深約600メートルから汲み上げられている海洋深層水の温度は8～10℃。冷蔵庫で冷やした水と同じくらいの冷たさです。



海洋深層水とふつうの海水を触り比べられるコーナーは、見学に来た子どもたちに人気です。

現在、この「冷たさ」を一番たくさん使っているのは水産養殖の分野で、海ぶどう養殖や車えびの種苗生産といった大きな産業から、カキの陸上養殖、微細藻類培養等の実証分野、さらにサンゴの育成、サーモンの養殖等の研究所内での技術開発まで幅広い分野で、水温調整用に海洋深層水が使われています。また、農業分野でも、土を冷やすことで、沖縄では暑すぎて獲れない野菜を育てる取り組みが行われています。

日射の強さや気温の高さは、沖縄の一次産業の強みでもあり、弱みでもあります。海洋深層水の冷たさは、その弱みをやわらげて、産業のバリエーションを広げる効果があるんですね。

今回は2つ目の特徴である「清浄性」の使われ方を紹介します。

研究所の一日あたり海洋深層水最大汲み上げ量13,000トンから供給できる冷たさのエネルギー量を計算してみると、なんと8畳用のエアコンおよそ1200台分に相当します。実際、研究所の本館にふつうのエアコンは無く、海洋深層水を使って冷房をしています。

(一社) GOSEA 事務局 岡村 盡 (地域おこし企業人) 久米島町プロジェクト推進課



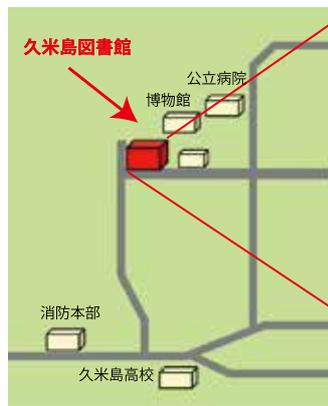
台風時等の避難所は久米島図書館(ほんのもり)へ変更となります。

令和3年から、台風時の避難所は**久米島図書館(ほんのもり)**へ変更となりました。

避難する際は、お間違いがないように早めの準備、避難をお願いします。

また、避難する場合、毛布、食糧やお薬など、ご持参をお願いします。

久米島図書館(ほんのもり)へ避難する際、1階入口は台風対策のため閉鎖していますので、2階入口(博物館側)から入館してください。



『ほんのもり(図書館)』2階入口



【連絡先】総務課 ☎:985-7121

Universal Design

本誌はメディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザー検定3級取得者の確認・校正作業を経て発刊しています。

UD FONT

広報誌「広報くめじま」はユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。